

アメリカ留学日記 (3)

早稲田大学3年・UC サンタバーバラ校留学 馬場 健夫

ワシントン DC インターンシップ体験記

初のインターンシップが、ワシントン DC。帰国子女でもない日本からの交換留学生。仕事はもちろん英語で。さあ、どうする!?!というわけで、三回目の登場です。

僕は今ワシントン DC でインターンシップをしています（五月現在）。久しぶりですので立場を整理すれば、もともとは早稲田大学四年生、そして University of California, Santa Barbara へと一年間の交換留学中で、春学期の三ヶ月弱のみ大学の単位が取得できるワシントン DC インターンシッププログラムに参加しています。各学期に UC 系列大学から約 200 人の学生がワシントンにある大学所有のビルに住み、インターンをしています。日中はインターンをし、夜に週一で授業を受け、学期末までに自由研究論文を執筆するというプログラムです。ちなみに、ここにいる日本人学生は自分を含め三人だけでした。これを読む人はアメリカで長く住んでいる方がほとんどだと思います。残念ながら日本でインターンシップをしたことがないので日米比較はできません。ここでは、日本で生まれ育ち、今回の留学で始めてアメリカにきた、帰国子女でもなんでもない交換留学生である自分の視点から、今までに海外インターンシップに関して感じたことを紹介できたらと思います。

ワシントンでインターンをしようと思った理由は、1. 将来の夢である国際公務員の準備段階として、英語を使ってアメリカ人と働く経験がしたかったこと、2. ワシントン DC という政治の中心で働きたかったこと、

3. 自分の専攻である国際政治について実務面から見てみたかったこと、の三点です。

次に、どういう NGO で働いているのかをご紹介します。私は「The Institute on Religion and Public Policy」というところで 10 週間のインターンシップをしていて、もうそろそろ終盤に近づいています。団体の目的は「信教の自由の推進」にあります。主な活動は、年に一回世界各国の議会から議員を招聘して、信教の自由と人権に関する国際会議を開催することです。今年で三回目になり、今までに 33 カ国が参加しているそうです。

具体的にしている仕事内容は、日本における宗教に関する法律の研究論文作成、国際会議への各国議員招聘のための全世界議会・在米大使館連絡先リスト作成、招待 FAX 送信、フォローアップ電話、電話対応、各種会合への参加（後述）などです。

この機関でインターンをしようと思った理由は、「違いを感じる」ことです。つまりは、「信教の自由の推進」や「民主主義の普遍性」などアメリカ人特有の政治、宗教、国際感覚の最前線で動いている団体に身を置くことによって、彼らの考えをより深く知ることができるのではないかと考えたからです。私自身は、信教の自由、民主主義という名のもとでの自由の普及（もしくは強制）には疑問を抱いていますが、アメリカ人がどういう風に考えて動いているのか興味があったので、あえて自分の考えとは違った団体でインターンをすることにしました。アメリカはいまでもなく、現在の国際政治において巨大な力を持つ国です。アメリカ人の政治、宗教、国際感覚を感じて自分との違いを明らかにし、彼らの紛争や世界の見方を理解することが、自分の関心分野である「紛争解決」に通じるのではないかと思います。

ワシントンでのインターンシップをして感じたことは、以下の三つです。

一つは、「政治の中心 DC はインターンには最高の環境である」ということ。

二つは、「仕事は全て自分次第である」ということ。

三つは、「インターンシップに期待しすぎてはいけない」ということ。

まず一つ目は、「ワシントン DC の地の利の良さ」です。私の専門が国際政治ですので、まさにワシントン DC は国際政治に強い力を持っているアメリカ政治を、直接肌で感じることができる場所です。数多くの機関、会社、NGO がインターンシップを募集しています。自分のインターンシップでは数多くのミーティング、会合に参加すること



日本人初の米国防総省長官？